

協議会ニュース

36号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1991. 11

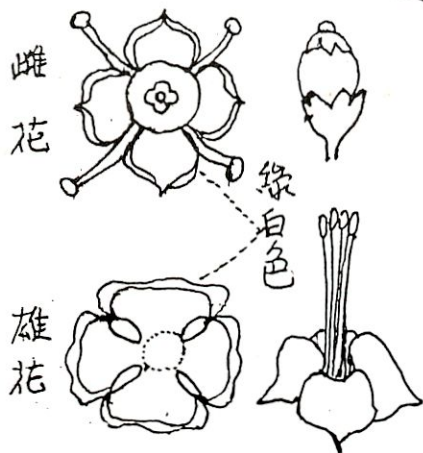
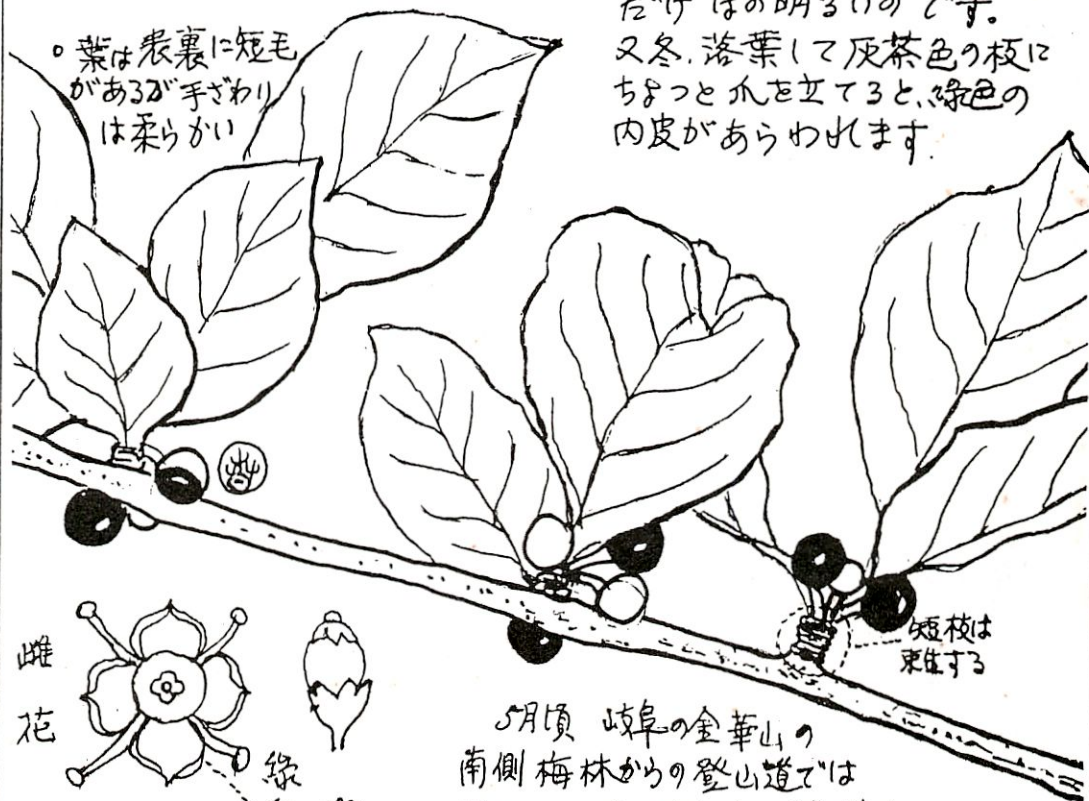
アオハダ (モクシ科)

1986. 10. 24 興正寺にて.

・実は葉の付け根に4コ5コ
黄、オレンジ、赤とおもしろです

・葉は表裏に短毛
があるが手ざわり
は柔かい

薄暗い森の内を歩いていると
緑色の葉を光が通してそこ
にけほの明るいのです。
又冬、落葉して灰茶色の枝に
ちぎりと爪を立てると、緑色の
内皮があらわれます。



5月頃 岐阜の金華山の
南側梅林からの登山道では
アオハダが多く、雄株と雌株が
隣り合わせて見られます。

後藤 春

愛知県自然観察指導員連絡協議会

三重県自然観察指導員連絡会

～合同行事～

秋の藤原岳自然観察会

尾張支部 北岡 明彦

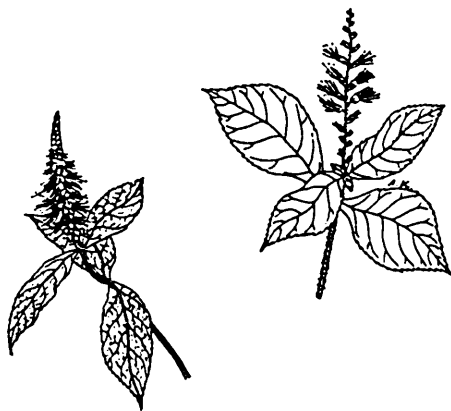
愛知・三重両県指導員協議会の初めての合同行事として、春・秋2回の藤原岳自然観察会を企画しました。春は生憎の雨のため、僅か12名の参加でしたが、秋は好天にも恵まれ、67名の参加でしたが、秋は好天にも恵まれ、67名の多数の参加があり大盛況の観察会となりました。

日時：9月22日（日）9:00～16:30

コース：三岐鉄道西藤原駅 — 藤原岳自然科学館 — 聖宝寺 — 6合目（昼食） — 8号目 — （有志 避難小屋） — 8合目 — 大貝戸道 — 西藤原駅

近鉄名古屋駅7:31発松阪行き急行に乘車、富田（とみた）にて三岐鉄道に乘換え終点西藤原駅に9:01着。藤原岳自然科学館にて全員集合。両県指導員（愛知9名、三重4名）・尾張支部自然観察友の会（8名）・藤原岳自然探査会（約15名）のほか、一般参加の人も加わり、老若男女合わせて67名の大部隊となった。

ミカエリソウ（ピンク）



テンニンソウ（イエロー）

秋の花の代表選手

三重県指導員の清水さんによる藤原岳のおおよその紹介の後、早速登山開始。

今日の観察テーマは、①秋の草花を楽しもう
②植物の垂直分布を観察しよう、の2点。

第1ポイントの鳴谷神社は、ツブラジイ・タブ・ツクバネガシの常緑樹林（標高150 m）。皆がまず歓声を上げたのが鳴谷滝のカリガネソウの美花。そして、その臭い（悪臭）にまたびっくり！聖宝寺道はすぐスギの人工林に入る。6合目直前で天然林にぬけるまでに恐れていたヤマビルの大襲撃に会い、犠牲者5名・・・腹をすかせた動物への献血有り難う・・・。ミカエリソウ・テンニンソウ・アズマレイジンソウといった本日の主役も出現。6合目にて昼食。



リスの食痕（オニグルミの実）

場所：藤原岳聖宝寺道6合目

その6合目で見つけたのが、オニグルミの実についたリスの食痕。近くには、イノシシの足跡もハッキリ。

なお、第2ポイントの6合目（600 m）の植生はミズナラ・コナラ・カジカエデ・ヤマボウシの落葉樹の下層にツゲ・アセビ等の常緑樹とシロモジ等の落葉樹の混じった落葉樹林に変化していった。

ここから山頂までは、まさに花の山。新しい友達への挨拶が本当に忙しい程。山頂部のスキ原も穂が出揃い、実に美しい。シオガマグキ・クサボタン・カワチブシといった高原の植物を楽しんだ後、下山。苦勞して登った有志に対する藤原岳からのお土産はニホンザルの群れ。9合目少し上の登山道近くに出現、子猿を含めて20余頭の群れが、じっくりその行動を見せてくれた。

“花の山”は即ち“動物の山”自然がいかに豊かに残っているか、私たちに強力にアピールしてくれた一日だった。ロープウェイも山岳道

路もないことが、この藤原岳に自然が残っている最大の要因だが、石灰岩採掘も年々進んでいるのが現状。さらに、貴重な植物を違法採取していく輩も後をたたず、登山道沿いから華麗な花たちが消えていく始末。

足がかなり重くなってきた2:45、8合目にて本日のまとめをして解散。「こんな企画を来年の春また実施しよう」をアピールして、三重県グループは聖宝寺へ、愛知県グループは大貝戸へ下る。

上りののろのろに比べて、下りは何と早いこと。膝のガクガクを除けば、全員無事下山。1合目で飲んだ谷川の水のなんと美味しかったこと！

天候にも恵まれ、参加者も多く、けが人（ヒル被害を除いて）もなくまずは楽しい、花の山旅となり、幹事としては、あ～良かった・・・

◆本日の記録◆

○見た花 — イヌショウマ・サラシナショウマ（白い試験管ブラシの如く）・ゲンノショウコ・ミツバフウロ・アキノキリンソウ・クルマバハグマ・カシワバハグマ・モミジハグマ・モミジガサ・ナギナタコウジュ・ヤブミョウウガ・ミツバベンケイソウなどなど

○味わった植物 — ヤクシソウ・アケビ・カンボク

○臭いをかいだ植物 — カリガネソウ・コクザギ・ミヤマシキミ・ナギナタコウジュ

○拾った植物 — オニグルミ・ミズナラ・クリ
味覚の秋・収穫の秋・これも秋の自然観察会の楽しさです。

○見た野鳥 — ヤマガラ・コガラ・サシバ・トビ・カケス・コゲラ

★ 自然観察指導員講習会

・期日：平成3年9月14日～16日

・場所：愛知青少年公園（長久手町）

愛知県と日本自然保護協会の主催する講習会が開かれました。受講者は63名（うち県内53名）で、そのうち47名が私達の協議会に加入していただきました。

なお、講師は金田平先生、植原さん（山梨県）開発さん（協会）で、地元講師としては協議会から8名が参加しました。

★ 運営委員会（普及担当部会）

・期日：平成3年10月6日

・場所：産業貿易館（名古屋市中区）

・出席：5名

・議題：平成4年度以降の事業について

今後の協議会の活動をどのようにもっていくかについて意見交換を行いました。自然観察会の進め方についての問題点、協議会の活動として何が必要かなど考えました。この結果は、平成4～8年度の5年間事業計画としてまとめる予定です。

★ 理事会

・期日：平成3年10月12日

・場所：産業貿易館（名古屋市中区）

・出席：12名

① 今後の事業について

今後予定している指導員研修（11月）、シダ研修（12月）、土壤生物研修（2月）の3回について概要の説明。機関誌の年報「愛知の自然観察」の内容として、自然観察会の結果・調査の中間報告・東三河支部の10周年行事結果・個人の調

査研究等をまとめ、次回総会時に発行することを検討しました。

② 組織の改正

協議会の事務局の中に4つの部会を設けて事務を分担するとともに、役員構成の一部を変更することとし、次の総会で規約を変更することとしました。詳細は、運営委員会で検討します。なお、会員資格で、自然観察指導員でない場合は常に理事会の承認がいることとなっていますが、これを再検討すべき等の意見がありました。

③ 5カ年事業計画について

当面の会の事業の方向を示す「5カ年事業計画（平成4～8年度）」をまとめることとしました。普及事業関係では、全県一斉観察会の代わりにテーマ別観察会の実施、環境教育等のテーマを設けて意見交換等を行う研究会やシンポジウムの実施、自然観察路マップや自然に親しむマナー集の作成などが案としてあがっています。

④ その他

平成元年以降の会費が未納となっている会員（20名）については事務局から会費納入を特に依頼するとともに、今年度中に会費が入らない場合は脱退扱いとする。協議会の略称については事務局で方向をまとめる。近県の指導員連絡会を集めたブロック会議の呼びかけを検討する。



観察会報告

長野県下伊那自然観察会（9月8日）

奥三河支部 石川静雄

当日は、台風接近の影響で朝から雨模様。案内をして下さる長野県下条の村上さんに連絡したところ「こちらは雨が降っていない」とのことでしたので、問い合わせのあった方に連絡し予定通り実施することにした。県境新野峠に午前10時集合、参加者は7名であった。午前中は阿南町化石館を見学、午後は村上さんが建設中の下条ランドユース・ホステルで昼食のお世話をいただきながら、広々とした農場の見学、ジャガイモ掘り、お土産にトウモロコシやリングゴまで頂き参加者一同感激。村上さんご家族にお礼を申し上げ、帰りは近くのおおくでの池周辺の自然観察、阿南町農村文化伝承センターを見学した。新野峠近くでは紅紫色の花をつけたツリフネソウの群生が各所でみられ、また棲み分けした黄色の花のキツリフネも点々と群生していた。さらに、この地で初めて見たトクサの群生も印象的であった。

江南市草井自然観察会（9月8日）

尾張支部 後藤 春

尾張支部の9月月例観察会が江南市草井の木曾川河川敷で行われました。テーマは、特異な河原の動植物の生活です。

参加者は、指導員5名、友の会5名など合計20名でした。

川原に下り、少し観察を始めた頃から台風15号の接近で雨が降ってきましたが、9月になっても残暑が厳しかった日々よりはむしろ心地よく雨を待っていたかの如く、植物たちは勿論、石も生き生きとしてきました。

それに、あの条件下で生活していくために、それぞれ工夫して生きている草々に驚き、特にカワラハハコは印象的でした。

又、地元の三輪氏の話はさすが実感が伝わり

オニグルミを傘の柄で採っては皆さんに土産とされ、うれしかったですね。...

昼食後はまた暑くなり、クズの花の匂いにむせながら、早々とサクラの木陰に引き揚げましたが、楽しい一日でした。

もう一度、足元に関心を持とうと思い直しました。



帰化植物 マメアサガオ

〔河原の植物たち〕

カワラハハコ — 草丈20cm余で銀色、葉は細く裏側に巻いて水分の蒸発を極力ふせいでいる。

カワラマツバ — やはり葉は線形をしている。

カワラヨモギ — 葉は細くヨモギの仲間とは思えない。

〔河原の昆虫たち〕

ツマグロヒョウモン・ツマグロキチョウ

コムラサキ・ゴマダラチョウ

磯の生物観察会（9月23日）

知多支部 加藤寿芽

- ・一般参加数 — 68名
- ・指導員数 — 12名 ・県関係者 — 5名
- ・集合場所 — 美浜町野間大坊 9時30分
- ・コース — 野間海岸～富具岬磯場
- ・解散 — 14時

〔内容〕

野間大坊に集合、参加者を5班に編成し出発乳牛舎より乳牛を見学、牛を間近に見た家族が多い。また、スピーカーで音楽が流れていた。これは牛乳の量が沢山できるように聞かせるそうだ。海岸に出るまで砂の量の観察、家の中まで飛んでくるとのこと。松並木の傾きから冬の風向、強さを観察。海岸（干潟）の草花、干潟の様子、海鳥が杭に一羽ずつ止まっていることの確認。海苔の種は作業見学、富具岬は川を挟ん

で北側が干潟、南側が磯と変化している地形。磯浜では解散してカニ・イソギンチャク・巻貝等を観察、採集、昼食後再び観察・実験を続け最後にまとめ、生物の名前の確認、質疑応答、2時解散。

自然だより



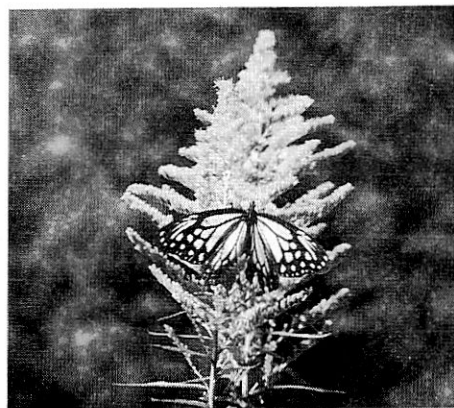
ものみ山だより — 21世紀万博予定地

尾張支部 北岡由美子

海上の森は、そろそろ秋をむかえています。キキョウ・オミナエシ等の秋の七草の仲間は今を終わりをづけ、あちこちに咲いていたワレモコウも色があせつつあります。反対に、ガマズミ類の赤がつつやとともきれいです。アケビも結構実り、おいしい秋になってきました。今のみどころは、沢沿いに現れるアサギマダラの優雅な飛翔とアキチョウジの深い紫です。道沿いにノコンギクも咲き乱れ、海上の里にはアキアカネがいっぱいです。11月17日（日）にこの海上の田で、ビッグ・アートを描き、航空写真を撮ってもらいます。

また、12月1日（日）午後1時より、協議会の顧問をして頂いている河合雅雄先生の講演会を瀬戸市にて催します。

何とかして、この海上の森を残していきたいと思っておりますので、関心のある方は是非ご連絡下さい。



秋の使者アサギマダラ

民間企業における自然観察会

東三河支部 丸山 嵩

私の勤務する豊川信用金庫は、昭和六十二年に創立五十周年を迎え、「心の豊かさ」を基本テーマに各種の記念行事を展開し、その一環として「東三河の自然観察マップ」の作成並びに「親と子の自然観察会」を企画いたしました。

自然観察マップ、自然観察会ともに、指導員連絡協議会東三河支部（東三河自然観察会）の諸先生のご指導をいただき、本年は、八月二十一日に台風十二号の合間を縫って愛知県民の森で「第五回、親と子の自然観察会」を実施いたしました。

戦後、日本の経済は、エクセレントカンパニーの旗印の下、国民の懸命の努力の結果、急速な発展を遂げ、世界中の人々から驚きの目で見られております。

しかし、世界の経済大国となった今、強い事だけでは世界に通用せず企業経営にも「文化」が要求されるようになり、所謂「アトラクティブカンパニー」魅力ある企業の時代が到来したと言われております。企業文化とはその企業の歴史そのものであり、その確立には長い時間を要するものであります。

豊川信用金庫における「親と子の自然観察会」は、必ずしも学習を目的としてはおらず、自然と人との触れ合いの機会を提供する事により、自然の素晴らしさ、大切さを肌で感じて頂くことを主題にしております。従って、一発逆転的な発想を持たず、ひとつひとつの活動の積み上げを大切にしていゆきたいと考えております。

親と子の自然観察会は第一回から本年の第五回までに、延べ六百名の参加を得ておりますが、カワムツやサワガニ等の観察に目を輝かせている子供たち、そして真剣にノートするお母さん方の姿を励みに、息の長い観察会にすることを念願しております。

自然日より

奥三河支部 石川静雄

10月上旬。新城地方の山林の原野は、秋の七草をはじめ、ヒガンバナ、ツルボなど色鮮やかな花が咲き乱れる。「萩の花 尾花葛花 なでしこが花 女郎花 また藤袴 朝顔（朝顔）の花」万葉集に詠まれた秋の七草も、今が見頃。自然観察に最適の時期である。ところがこの秋の七草のうち、フジバカマだけまったく見られなくなった。同属のヒヨドリバナやサワヒヨドリは健在であるというのに。

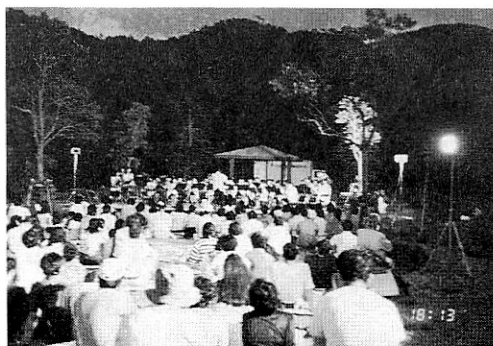
東三支部10周年行事のお礼

東三支部長 武田孝夫

9月15日、東三支部10周年記念行事を無事終えることができました。協議会を代表し大竹会長さん、また他支部の方にもお出で頂き誠に有り難うございました。

当日は、天候が若干心配でしたがミニ観察会・トーク&コンサートと順調にすすみ、我々の念力が通じたのか、最後まで雨に降られないで無事すみました。250人に及ぶ参加者があり自然の大切さ、素晴らしさ、不思議さを十分知ってもらえたと思っています。その詳しい内容は11月上旬発行の記念誌また協議会の年報の中でご報告します。

東三支部一同、この経験を今後の活動に生かしていくつもりです。今後とも宜しくお願いします。



コンサート会場風景

石 巻 山

東三河支部 中島芳彦

石巻山は、豊橋市街より北東約7kmの所にあり、弓張山系の主稜より西に延びる石巻尾根のほぼ西端に位置し、標高356mの山頂は石灰岩の大岩塊で、風雨に侵食された石灰岩が織りなす景勝地です。

青稜街道を東進し神田川にかかるお茶屋橋の所にバス停があり、右手に石巻山自然歩道入口の案内板が有ります。(現在橋の架け替え工事をしている為分かりづらい。)

これより山手に向い1.5km程進むと石巻神社の下社が左手に見えてきます。お宮を通り越しすぐに右折し、山道を車で登るのが最も手軽に石巻山に登るルートです。

今日は、文明の利器を麓の間場口に置き、石巻自然歩道を歩き頂上を目指すこととする。

この自然歩道は、車の普及で登る人も少なく荒廃していた登山道で、昭和44年に豊橋自然歩道支線第1号として生まれ変わり、その後、石巻山登山のメインルートとして多くのハイカーに利用されています。

登山道は登り易く、キョロキョロ観察しながら登っても転倒することは無いと思います。

右手にスギ、ヒノキの人工林が広がり左手にコナラ、シイ、カシ林が続きます。夏は地元の子供達がカブトムシ、ミヤマクワガタ等の虫採りを行う場所となっています。500m程でツブラジイの大木の下に第1休憩所が見えてきます。

9月下旬とはいえ汗でべっとり。ベンチに腰掛けやっと周りの景色や音を聴くゆとりができました。弱々しくツクツクホーシが鳴き、ミンミンゼミは声が割れ痛々しい。コゲラのドラミングだけは何時来ても元気だ。汗も退いたところで、第2休憩所に向いゆっくりと登る。ここはやや広い平坦な尾根上にあり、アキアカネが群飛していました。特に日当たりが良く風の当た

らない所に多くいるのが観察できました。

第2休憩所を過ぎると薄暗いヒノキ林となり、ザトウグモが盛んに行く手を横切る。

金田集落よりの参道と交わる第3の休憩所を過ぎると旅館街が見え、鳥居をくぐり急な石段を上りつめると、石巻神社の山上社です。この付近の石は暗緑色の輝緑凝灰岩です。凝灰岩ですから火山灰がもとになって出来た岩で、石灰岩の産出する所によく出てきます。

山上社では、旧正月14日15日にかけて「管粥祭」が行われます。この神事は、神田でとれた斉米を芦の管と共に粥に煮る。夜、丑の上刻、神前に祈禱かがり火をもって点火し、口伝の行事を行いつつ櫛の三岐の木で粥をかきまわし、15日卯刻、管を開き当年の作物の吉凶を占う古式の神事です。今年こそ是非見たいものと張り切っていたが風邪のため空振りに終わりました。

石巻山に登る前に石巻山自然科学資料館を訪れてみましょう。石巻山周辺を中心に、弓張山系の自然科学関係の資料が展示されています。

山上社と頂上までの標高差は126m、延長600m程の距離ですが変化に富んだ自然観察が出来ます。

整備された登山道を数十m進むと大きなタブノキに出会います。いつもこの木をトントンと叩いて「また来たよ」と語りかけても知らんぷりをして見下げています。

これより奥の院に通じる歩道を登ると、両側にホシダ、オドリコソウ、ヤマアイ、アオキ等が群生しオオシマザクラも見られます。

さらに進み足元の石ころが白くなると、大岩壁の下に着きます。一帯は杉の大木に囲まれ、梢から差し込む光が「このしろ池」を照らしていました。このしろ池は、石灰岩と輝緑凝灰岩の間に湧き出た水が溜った小さな池です。

池の周りはオニヤブソテツ、ツルデンダ、ヤナギイチゴ等が自生し、かつては、このしろ池の水は長寿の泉とも言われていました。

奥の院の岸壁下を通り、石灰岩の露出する坂

を登るといい臭いがすることに気付きます。
覆いかぶさるコクサギをかき分けて進むため葉
が擦れあい発臭したものです。

藪漕ぎに飽きたころ西の尾根に出ます。杉林
の下にカラタチ、カジノキ、イヌビワ、コクサ
ギ、アオキ等が自生し石灰岩特有のカルスト地
帯を形成しています。

風化水蝕により出来た蛇穴は奥行きが約1.3
m程あり、昔、大蛇の住みかと伝えられ、この
名が付きまして。約60cm程の蛇穴に太った体
で挑戦する。よっんばいになり必死で進む。恐
る恐る出た所は、奥の院の岩壁の真上でした。
この一帯はカラタチとキツネノカミソリが群生
し開花時期には、美しい光景を見ることができ
ます。

また、このようなカルスト地帯には、オオケ
マイマイ、オオギセル、ヤマタニシ、ベニゴマ
オカタニシ等の陸貝が見られます。降雨時に登
ったところ、盛んに動き回っていたが、今日は
岩の割れ目等に隠れているのが観察出来ました。

その昔、天狗の舞の広場と言伝えられている
天狗平で一息いれていると、アサギマダラがフ
ワフワと飛んで来ました。こんなんびりとし
た飛翔力で本当に海が渡れるのであろうかと不
思議に思う。

岩頭の北側を回り込み頂上を目指す。岩壁に
設けられた鉄製の階段を登ると標高356mの
頂上、雄岩です。

岩頭は、雄岩と西の天狗岩、東の雌岩の3峰で
構成される切り立った岩壁です。

頂上の石灰岩地帯は、乾燥し、さらに十分な
土もなく、根を下ろすには過酷ですが、そんな
所にも生き続ける植物が多く見られます。

岩の隙間のわずかな土に、イワシモツケ、イ
ワツクバネウツギ、ミツバベンケイソウ、イブ
キボウフ、キリンソウ、カワミドリ、ホウライ
カズラ、ツルマサキ、クモノスシダ、ビロード
シダ等の石灰岩地帯特有の植物が見られます。
このように県下でも珍しい石灰岩地であるため、
昭和27年10月11日、石灰岩地帯植物群落

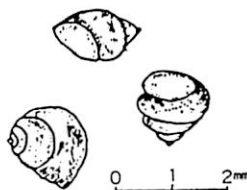
として、国の天然記念物に指定されました。

涼しい風を一杯受け寝そべりながら大空を見
ていると、ツバメが群飛し、腰の白いイワツバ
メも混じっている。ものすごい勢いで突っ込ん
で来たかと思うと岩頭寸前で急上昇し、点のよ
うに小さく遠ざかり、また岩頭めがけて飛来す
る。見ていて飽きないものです。

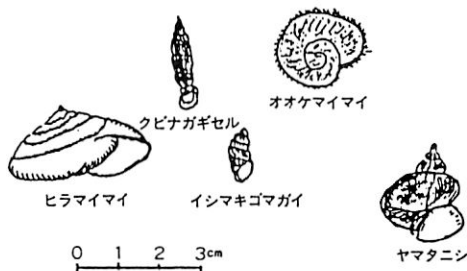
「アー何だー」トビかな、でも少し違うみた
い。良く見るとサシバだ。3羽のサシバが悠々
とツバメの中に舞い上がりました。そうか、季
節はもう秋なのだ。



石巻山岩頭



ベニゴマオカタニシ



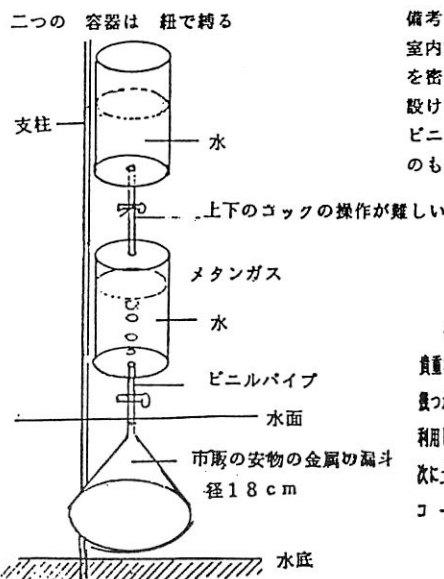
廃品を利用した実験観察器具の工夫 ④（最終回）

メタンガス捕集器

竹内 哲也

観察時の発想を実験で確かめて見たいことがしばしばあるけれど観察用具をどの様に拵えたらよいか？その材料は？、となると諦めてしまうことが多い。廃品のインクのカセットのケースは、切る、穴をあける、接着するなどの工作が用意にできるのが良い。丁度、芸術家がイメージを粘土で再現してみることに似ている。

何年前か前、千葉県、茂原市の水田でメタンガスの泡に火をつけてみたことがある。水上置換によるガス溜め装置を拵えて溜め池（どぶ池）で実験してみたいものである。そうしたら今の観察会の動植物対象のテーマに変化をつける事になるかも知れない。林床に落ちた木の葉の変化は、観察会で取り上げられるが、水におちた有機物（木の葉）の分解が理解できるのではないだろうか。



備考

室内実験には漏斗の部分
を密閉できる容器を別に
設けるとよい。
ビニルパイプは少し太目
のものを使った方がよい。

4日にわたり、
貴重な紙面をありがとうございました。
長つかの試作品の中でよく
利用しているのがよく
利用しているのがよく
次に土の実験資料としての容器です。
コーヒーマシンより割れなくて安全。

—ちょっとひねった自然観察 V—

冬緑植物 カラクサシダ

尾張支部 北岡明彦

春緑植物の通称であるスプリングエフェメラルといえば、すぐカタクリやニリンソウが頭に浮かぶと思いますが、冬緑植物と言われて、何を思い出しますか？

秋に葉を出し、冬の間に光合成を行い、他の植物の葉が茂る春には地上部は枯れて夏眠に入るという生活サイクルです。他の多くの植物が眠っている冬に、陽光をたっぷり浴びて、養分を蓄えます。

その代表選手としては、ヒガンバナ科のヒガンバナ（田の畦）やキツネノカミソリ（林縁）と、シダの仲間のフユノハナワラビ・オシャゴジデンドロやカラクサシダがあります。

今回の主人公カラクサシダは、温帯の岩上や樹幹のコケの間から、冬の間だけ2.5 cmぐ

らいの小さな葉を茂らせるシダです。樹木や草がすっかり葉を落とした頃、ブナの樹幹から精一杯葉を伸ばし凍りつくような寒さにたえている姿を見ると、「ヤァ、今年も頑張ってるネ！」と声をかけたくくなります。

ちょっと変わり者の冬緑植物たちに、可愛いニックネームがつくといいですね。



愛知の自然観察・

自然研究・自然保護グループ

会員の方々から寄せられた情報をもとにまとめました。ご協力有り難うございました。情報が少なく、不十分な形ですがご報告します。

記載内容 ①会の名称 ②代表者 ③連絡先
④活動内容 ⑤入会方法・資格 ⑥会費等

①暮らしの環境調査ネットワーク

②鈴木成和 ③名古屋市瑞穂区片坂町1-32

コーポホック302 鈴木成和 ☎052-831-3559

④身近な環境を見直し環境保護活動につなげる。

⑤とくになし ⑥無料

①平和公園自然観察会

②滝川正子 ③名古屋市千種区鹿子町7-30

滝川正子 ☎052-781-2595

④都市部に残された平和公園南部において、自然観察、環境教育を行い都市部に残された森の大切さを呼びかける。毎月第2日曜日に観察会を行う。⑤とくになし ⑥無料

①東山の自然を守る会（東山自然観察会）

②武田 篤 ③岡崎市八幡町2-57

武田 篤 ☎0564-21-4405

④毎月第3日曜日9時30分に東山植物園ロータリー南に集合。草刈り・ごみ拾い・観察会を実施。開発から東山公園南部を守り、自然を復元すること。

①三河生物同好会

②宗川元章 ③豊橋市呉服町28

宗川元章 ☎0532-52-9229

④生物の調査・研究、研究誌「虫譜」の発行。

⑤とくになし ⑥年会費2000円但し高校生以下1000円

①渥美自然の会

②大羽康利 ③渥美郡赤羽町高松字一色4

④渥美の自然の調査研究・保護活動

⑤⑥とくになし

①日本野鳥の会愛知県支部

①尾張野鳥の会

②浅沼秀夫

①西三河野鳥の会

①東三河野鳥の会

①名古屋昆虫同好会

①モンキー友の会（モンキーセンター）

①豊田植物友の会

①中部の環境を考える会

①矢田庄内川をきれいにする会

①瀬戸の環境を考える連絡会

②加藤 昌

①子供たちに裏山の自然を残す会

①白玉星草八丁トンボを守る島田湿地の会

①名古屋ため池の自然研究会

②浜島繁隆 ④調査研究・保護及び知識の普及

①かもしかの会

③細井 剛

①南知多生物研究会

④機関紙「エコロケーション」の発行等

①名古屋哺乳類研究会

①自然の学校

②相地 満 ④自然観察、音楽会、研修会

①知多自然講話会

①武豊町沓町田湿地保護の会

自然観察施設訪問③

— サロベツ湿原

原生花園ビジターセンター —

中西 正

木道の一番端に来て、その先を見渡すと地平線が見えた。地平線の方を双眼鏡で覗くとエゾカンゾウで黄色に染まっていた。地球の丸さを体感できる湿原がこのサロベツ湿原だった。そのだっ広い湿原の真ん中にビジターセンターは建っている。湿原の中から眺める建物は実にこじんまりしていた。大草原の小さな家といったところか。

木造二階建てで、入って左側がインフォメーションセンター、そこに管理人がいる。その向こうにはサロベツ関係の参考図書が置かれている。ワンフロアの中央には二列にパネルが立ててあり、湿原の紹介がなされている。パネルの間にはいすが置かれ、その上手には教卓が置かれている。自然教室も開かれるのだろう。

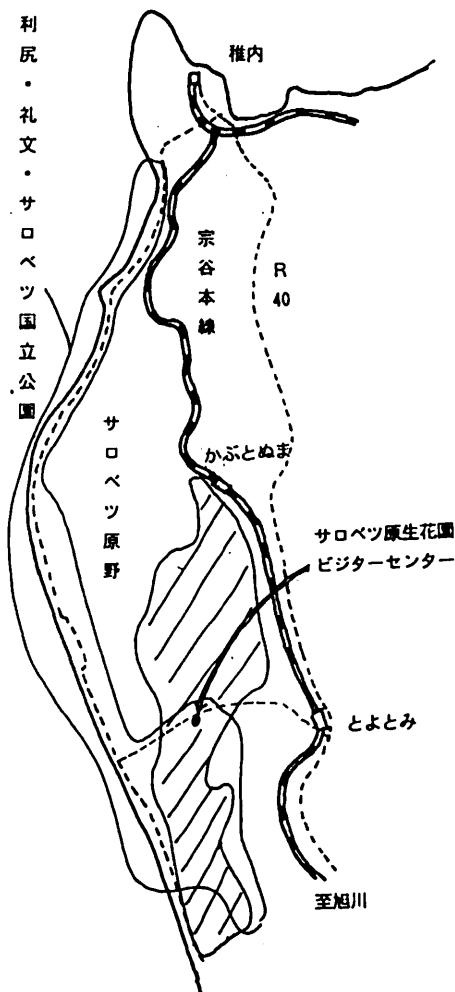
二階はパネルが少しあるが、観察のための部屋と思われた。窓際にはプロミナーも設置されている。ここからは湿原中の小鳥類や植物の詳しい観察は無理と思われる。プロミナーは野鳥観察によく使われるが、ここでは湿原の広さを感じるための小道具のようだ。サロベツの広さと、二階程度では高さを感じなかった。

入口の対面には湿原に出られるドアがつけられていた。ビジターセンターに入った人が、少なくとも管理人の情報を得て湿原に出られる構造化と思った。木道にここからだけ出られるとすれば、誠に興味深いと思ったが、残念ながら他からも出ることができた。ドア付近には現在観察できる植物や動物の名前が書き出されている。

遊歩道は1.1kmで、ただ歩けば20分とかからず回れてしまう。しかし、ひとたびゆっくりすれば1時間かけても回れないのではなからうか。イソツツジ・ツルコケモモ・トキソウ・アサヒヒランと小型の花が咲いている。腰を下ろして観察できる植物たちだ。目立たないヤチヤナギ

も興味深い。愛知県では貴重種として保護されているものが、ここではどこにでもはえている。立ち上がればさえぎるものがない。丈の低いヌマガヤが優占するだけに、地表が滑らかに見えた。この植物を越すのはエゾカンゾウだけだ。遊歩道を歩くうちに何度立ち止まり、その広さを確認したものか。

このビジターセンターは国立公園の中のものとしては貧弱に感じた。しかし広い湿原の中ではこの規模がいいなと思い直した。



大歓迎 新入会員ご紹介

さる9月14日～16日の愛知県自然観察指導員講習会で新たに、47人の方々が私たちの仲間に加わっていただきました。今後のご活躍をお祈りするとともに、誌上で自己紹介をお願いしました。

お名前	夏野 征彦	住所	〒(485) 小牧市栄々丘三丁目1番地5 TEL 0562-29-0071
興味のある分野	樹木、草花、		
自己紹介	私は元々(木造家)の建築に20年になり、今年、 今年色には目を惹いた。少しづつながら、完成に近づきつつある。		
協賛会活動に 期待すること	研習会、講演会等に参加し、お互いの思いや、 (空は青く、水は青く、山は青く、人々の心は青く、)		

お名前	林 香衣	住所	〒(455) 一宮市比叡町2番1号 TEL 052-81-3251
興味のある分野	"食べもの" 草木について		
自己紹介	driver、7-リング好きな26才程度 恋人募集かも男性は		
協議会活動に期待すること	"草木" についてもっと知りたい		

お名前	木全 允己	住所	〒(464) 堀部郡美和町埴原西町62/1 TEL 052(244) 4600
興味のある分野	地質、古生物		
自己紹介	FMS、スー・FD等のイベントをします。イベントもいろいろします。		
協議会活動に 期待すること	障害者にも自然の面白さを味わってほしいと思います。 是非いろいろな分野の研究を、協議会の企画で?		

お名前	若井春樹	住所	〒(609)三軒市宮元町104-13 TEL (067) 82-5983
興味のある分野	IT / 不		
自己紹介	行々OとRのやり取りや、皆々へです。		
協議会活動に 期待すること	かたがた、懇談会のフットワークにて ASL。		

お名前	小林 節子	住所	〒(489) 瀬戸市見付町25の1 TEL 0561-83-0783
興味のある分野	植物・樹木		
自己紹介	草木染めを通して自然の神秘・恩恵をいっしょに感じています。		
協議会活動に期待すること	身近な自然のなかでの観察会をたくさんして下さい。		

お名前	山本 行子	住所	〒1481 3期市 初町9-6 TEL 0561-83-9438
興味のある分野	株・本		
自己紹介	自然に親しみながら何でも楽しいこと。 自然とあいて人間のことまで思えてくる...		
協賛会活動に 期待すること	「親しみ」「知る」「作る」の3本柱で、自然との 共生の道と、楽しみながら広がっていくこと。		

お名前	石川 賢一	住所	〒486 春日井市高森台3-16 鳳職住宅5-104
興味ある分野	自然景観		
自己紹介	日本の自然の緑と水の豊かさを見るにつけ、日本に生まれてよかったと思う。		
協議会活動に期待すること	年をとっても活動したいので、金の長い存続を期待します。		

お名前	西村 博	住所	〒(104) 大田区大森4-15-1 TEL 03-62-61-0097
興味のある分野	植物、特に樹木に接する点		
自己紹介	書くことは自信あり。		
協議会活動に 期待すること	年々少くなるのを活動していく中、 作るべく努力したい。勉強して下へ		

お名前	三輪 伸一	住所	〒482 名古屋市下町下通117 TEL 052-766-4556
興味のある分野	植物		
自己紹介	自分に合った草花や和デジコとはとても言えないので 自分にピッタリの花を愛用したい		
協賛会活動に 期待すること	山と野の研修会、夕日エトモカノで参加 したいと思い希望なので多くのチャンスとえて 下りたい		

お名前	橋本 勇吾	住所	〒 464-0111 名古屋市大宮区大宮 5-1-17 栄光 TEL
興味のある分野	哺乳類の生態.		
自己紹介	山歩きが 好き.		
協賛会活動に 期待すること			

お名前	川島 啓	住所	〒460-0104 愛知県名古屋市中区 TEL 052-6217259
興味のある分野	人用植物		
自己紹介	作家として活動中		
協議会活動に 期待すること	色々と果実の研修会に参加して 学ぶこと		

お名前	じんこう 和田 茂夫	住所	〒(426) 知多市原 283-1 7F 7~12F TEL
興味のある分野	野鳥		
自己紹介	東海市吹地公園 2 10月~4月まで 毎月 7 3日 8日 探鳥会を主催します。		
協議会活動に 期待すること			

お名前	水田直美	住所	〒 ⁵⁷⁰⁻⁰³⁴ TEL 0569-65-1044
興味のある分野	海洋生物		
自己紹介	19歳。日生生まれのAB型(日本人?!)です。		
協議会活動に 期待すること	海外への研修機会に参加したいと思っています。		

お名前	稲田五郎	住所	〒(416) 東海市富樫町北島1-1-5 TEL 052-601-6972
興味のある分野	草花でそのをする		
自己紹介	私はトビでノマでずいぶん自然が好きです		
協議会活動に期待すること	ともに、カンパリなれ		

お名前	加藤大前	住所	〒(416) 東海市新井町伏見2-1-7 TEL 052-617-2111
興味のある分野	材木 昆虫		
自己紹介	体が自信がないので、材木を好きです。		
協議会活動に期待すること	自分も参加できたいと思うが、忙しなく視察会も開催、おた連絡してたい。		

お名前	三津井悦子	住所	〒(471) 豊田市美里3-22-19 TEL 0565-88-8988
興味のある分野	植物・昆虫 (何にも知りません)		
自己紹介	山歩きが好きです。生き物についてはこれから勉強していきたいです。		
協議会活動に期待すること	月1回位親睦会があればいいですね。		

お名前	佐田陽作	住所	〒(466) 名古屋市昭和区新所2-8-7 TEL 052-881-4741
興味のある分野	水と昆虫		
自己紹介	自然が好きです。		
協議会活動に期待すること	研修会の開催		

お名前	家城 司	住所	〒(464) 名古屋市豊田自由ビル2-22-1 TEL 052 761 4077
興味のある分野	昆虫類 特にお蝶 カメレオン類		
自己紹介	環境アセスメントの仕事をしています		
協議会活動に期待すること	研修会には時間ゆとりがあるときは参加したいと思います		

お名前	加藤純子	住所	〒(444) 名古屋市豊田町4-68 TEL
興味のある分野	動物、特に鳥類		
自己紹介	とにかく生き物全般に一生懸命にやっています。少々素直です。おしこ万原にいます。		
協議会活動に期待すること	出来るだけ親睦会、研修会に参加したいです。何かか不安か出来たので、日程バリエーションです。		

お名前	水野真希	住所	〒(464) 名古屋市千種区上野2-13-4 TEL 723-1515
興味のある分野	動物と植物。イモリやカエルなどもいい... 虫		
自己紹介	体力はないが好奇心が強い。アンバランスに悩んでいます。		
協議会活動に期待すること	内容の濃い、自然体験のある研修会と、バラエティに富んだイベント的なもの、黒の内装のような研修会も期待しています。		

お名前	山崎 節子	住所	〒(413) 名古屋市守山区新屋4-415 TEL 271-9857
興味のある分野	山歩き 時に蝶も見ていたい		
自己紹介	元氣なおばさん、声の大きいのが長所？短所？		
協議会活動に期待すること	山歩きや、自然、参加したい活動。		

お名前	古谷 茂	住所	〒(463) 名古屋市小区天宮山2丁目161番地 TEL 052-773-9311
興味のある分野	高山植物		
自己紹介	星島根県の大谷正地より植物を月1度のバスで入山しています。		
協議会活動に期待すること	定例会とともに出張してみたいので、指導をお願いします。		

お名前	岡田克彦	住所	〒(463) 名古屋市千種区千種1-1760-5 TEL (052) 726-2622
興味のある分野	木生植物と水質		
自己紹介	岩村でセラピーから、水環境の保全に努めています。2月からは、セラピーでもガンバルン		
協議会活動に期待すること	研修会(どんな分野でも)に参加したい		

お名前	加藤和彰	住所	〒(464) 名古屋市東区東大根町9-22 TEL (052) 935-8921
興味のある分野	草花(とくに)		
自己紹介	山置りか好きです。どなたか、いっしょに歩いてみたい。		
協議会活動に期待すること	どうせなら、お花をいっぱい、おしこ不便です。		

お名前	佐藤武男	住所	〒(466) 名古屋市緑区鳴海1-2132 TEL 052-876-6877
興味のある分野	野鳥		
自己紹介	他の分野も出るといいですね。		
協議会活動に期待すること	特におし。		

お名前	垣見 宏	住所	〒() 名古屋市緑区鳴海町新田 TEL 4-11 2-アール島海でいいます
興味のある分野	指標生物 (今はミカド)		
自己紹介	知識ゼロからの勉強です。		
協議会活動に期待すること	とにかく、色々おしこもらたい。		

お名前	三浦ユミ	住所	〒(468) 名古屋市東区松山1-207 TEL 10173 3711
興味のある分野	生きているもの全て		
自己紹介	木の温もり大好き人間です。		
協議会活動に期待すること	大いに期待しています。		

お名前	石見野光	住所	〒(440) 豊橋市南瓦町 20 TEL (0532) (45) 0094
興味のある分野	ECB、F&M、人文景観		
自己紹介	今年ふたつが、会に100年今日にふたつ かたじけなく。		
協議会活動に 期待すること	ちやうど12年ぶりに（仕事に復帰し かたじけなく、さうして		

お名前	いかりまし	住所	〒(440) 豊橋市花田町エ 66-1 A203 TEL 0532-64-0709
興味のある分野	植物（お手にスミの分布生態）		
自己紹介	おみんの写真を撮ってます。		
協議会活動に 期待すること	行政を動かすためのタイムアップ 力と行政能力を身につけたい。		

お名前	金田 泉	住所	〒(441)-13 新城市市田字本宮道 312-68 TEL 05362 (3) 3650
興味のある分野	自然観察全般		
自己紹介	こゝからとんとんお強して行きたいと思ひ おしく、おどし、おどし。		
協議会活動に 期待すること	特になし		



編集後記

◆学校は4月、新入生が入ると活気づきます。協議会の新学期は新入会員の入られる9月。新会員のご活躍を祈念するとともに、会に新風を起してもらいたい。私、個人としても刺激を受けることを楽しみにしております。そこで新会員の方をお願い、これからは観察会にはしばしば参加されると思いますが、「協議会ニュース」に投稿の方もお願いします。広く門戸を開けてお待ちしています。この機関紙が情報源として中身が濃いものになるのも、皆様方の投稿量に比例します。どんな事柄でも結構です。是非情報をお送り下さい。

◆今回も大勢の方、原稿をお送り下さり有り難うございました。そこで、原稿を出される方へお願い。本来はお送り下さった原稿は返却すべきですが、とてもその余裕がありません。返却が必要な場合、そのむねお書き添えください。勝手なお願いですが・・・但し、写真は必ず返送します。

◆各支部の通信員の方から「協議会ニュース」用にということで、支部だよりを編集部にお送りいただいています。その中から、相当量の情報を使わせて頂いています。本来は個々の執筆

者の了解を得て転載すべきですが、これまたとてもその余裕がありません。ご理解ください。

◆この「協議会ニュース」の編集には、いろいろな方のご協力があります。支部通信員の方、それから「新聞スクラップ」のコーナーの為に尾張・名古屋の新聞ローカル版の中の記事を佐野滋さん、斉竹善行さんがお送り下さっています。頭が下がる思いです。

◆次号は新年1月号です。新しい年にかかる夢・抱負などお送りくだされば、幸いです。また竹内哲也さんの「廃品を利用した実験観察器具等の工夫」シリーズが終わりました。どうもご苦労さまでした。どなたか、シリーズものを書いていただける方はありませんか。1月号から載せたいと思いますので、ご希望の方は大至急お知らせください。なお、1月号の原稿締切りは12月10日です。

編集部会 神戸敦

〒440 豊橋市多米中町1-12-3

☎ 0532-62-5308

11月～1月の行事案内

*他支部の行事にも参加出来ますが、急な変更があるかもしれませんので照会の上、御参加下さい。

- ①主催 ②集合場所・時間 ③照会先
④行事のねらい ⑤参加資格・費用 ⑥備考

【11月2日(土)～3日(日)指導員研修会】

- ①協議会 ②犬山市継鹿尾

【11月3日(日)財賀寺観覧会】

- ①東三河支部 ②豊川市財賀寺
③天野保幸 ☎05338-7-6012
④晩秋の森の観覧

【11月8日(金)生物の冬越し準備】

- ①知多支部 ②阿久比中央公民館 18:30

【11月9日(土)～10日(日)鈴鹿山脈の自然を訪ねて】

- ①知多支部 ②東海市農業センター 9:30
③加藤 ☎0562-83-8425

【11月10日(日)尾張支部月例観覧会】

- ②瀬戸市岩屋堂 ③鈴木成和 ☎052-831-3559
④秋の黄葉と水生昆虫の世界

【11月17日(日)豊田市自然観察の森観覧会】

- ①知多支部 ②東海市農業センター 9:30
⑤会員研修

【11月20日(水)名古屋支部11月例会】

- ②名古屋市教育館 6:30～
④村上哲生「名古屋市の河川」
⑥例会後、懇親会

【11月24日(日)豊田市自然観察の森観覧会】

- ③豊田市自然観察の森 ☎0565-88-1310
④これはスゴイ!植物たちの繁殖戦略

【12月1日(日)シダ植物研修会】

- ①協議会 ②豊橋市嵩山蛇穴

【12月8日(日)尾張支部月例観覧会】

- ②立田村木曽川堤③鈴木成和 ☎052-831-3559
④いろいろな水鳥をじっくりみる(トモエガモを探そう)

【12月8日(日)名古屋支部隔月観覧会】

- ②平針・針名神社9:30

【12月15日(日)大池公園観覧会】

- ①知多支部 ②大池公園9:30

【12月22日(日)豊田市自然観察の森観覧会】

- ③豊田市自然観察の森 ☎0565-88-1310
④僕等は森の掃除屋だ!土壌動物の世界

【1月12日(日)尾張支部月例観覧会】

- ②犬山市善師野 ③大竹 勝 ☎0568-61-3659
④里山の冬鳥の観覧
⑥午後は尾張支部の総会の予定

【1月19日(日)平成4年度奥三河支部総会並びに作手高原自然観察会】

- ①奥三河支部 ②作手村役場前10:00
③石川静雄 ☎05362-2-1171
④新年度の事業計画等 ⑤会員 会食実費
⑥自動車参加

【1月26日(日)豊田市自然観察の森観覧会】

- ③豊田市自然観察の森 ☎0565-88-1310
④冬鳥をじっくり楽しもう



会員の活動から

・辻 伸夫さん

きのこ精密画展『美しい森の妖精たち』

場所 — 豊橋市自然史博物館 ☎0532-41-4747

期間 — 10/20～11/10 月曜休館

・流域の自然学シリーズ1

「豊川の自然を歩く」が出版されました。

中西 正さん・池田芳雄さんの編集で浅岡孝知・戸河里光雄・松岡敬二・横山良哲の皆さんが執筆に加わっています。風媒社からで¥1380です。自然観察のお供にどうぞ。